

## 中国空軍ニュース：パキスタンの中国製武器離れ

漢和防務評論 20181107(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国の国際信義を無視した武器輸出がパキスタンの中国製武器離れを招いています。  
中国はパキスタンと共同開発した JF-17 戦闘機をパキスタンの意向を無視してミャンマーに輸出しました。  
共同開発時の契約では、第三国に輸出する際、利潤は折半ということになっていたようです。  
また、ロヒンギャ問題でムスリム諸国の世論はミャンマーに対する武器輸出に反対しているので、パキスタンは微妙な立場に立たされています。

ZAFAR HASSAN イスタンブール

KDR 編集部添削

今年になって、パキスタンの武器購入方針が”中国離れ”している。VT-4 戦車は、第一段階でパキスタン陸軍の主力戦車リストから外された。武装ヘリは、トルコ製の T-129 を選択した。次の段階は、第 5 世代戦闘機を選択であるが、トルコが積極的に入札する時代を迎えており、中国の FC-31 は、或いは長年検討されてきた FC-20/J-10 は購入検討リストに含まれていない。イスタンブールの消息筋は KDR に次のように述べた:彼らはすでに YL-1 無人機をテストした。現在、大量購入の計画はない、と。実際上、これは遠慮した言い方である。トルコはパキスタンの無人機市場で競争しつつある。海軍用武器は若干例外である。2 艘の 054P ミサイル護衛艦、6 艘の潜水艦の契約はすでに署名済みである。これは 10 年前の交渉での契約であり、すなわち過去の成果である。消息筋はこのように述べた。なぜなら中国は、大量の借款を供与したからである。これらの現象は偶然ではない。パキスタンの武器装備は、”中国離れ”が進行している。今後、その他の国家にも影響を与える可能性が極めて高い。特に所謂”一带一路”のルートに沿った国家への武器輸出は、中国の重点政策であったから。

最近 2 年間、パキスタンの高級軍事代表团及び航空界の人々は、各種国際会議及び展示会等で、注目を浴びていた。過去は、中パの軍事協力に話が及ぶと、パキスタンの官員は、極めて積極的になり、高く評価し、協力内容の公表についても相当開放的だった。しかし最近の 1 乃至 2 年間は、すべての国際記者が注目している中パの軍事協力問題を質問すると、パキスタンの高級官員は：話題を変えて欲しい、と述べた。

このことは、中パの軍事協力関係に新たな問題が発生したことを示している。パキスタンは結局中国の資金集めの道具にされたのか？研究する価値はある。

第一、パキスタンは武器の輸入源を多様化し始めた。これは元々パキスタンの基本政策であった。特に近年来、ロシアとの関係を大幅に改善した。双方は、**Mi-35** 武装ヘリの導入、或いは **SU-35** の輸出入問題を含め広範な領域で協力関係を強化し始めた。このことは、パキスタンが中国だけでなく、多くの選択肢を有することを示した。

以前、ロシアと中国が協定した **RD-93** 型航空エンジンに関する契約に、“第三国には輸出しない”との条項があった。現在パキスタンは、直接ロシアから **RD-33** を輸入することができる。ロシアとインドの軍事協力関係は、近年疎遠になっている。

次に、中国が **JF-17** 戦闘機をミャンマーに輸出したことが問題になっている。パキスタンの官員は公の場では論評していない。しかし今回 **KDR** は、**JF-17** に関する新たな問題を明確にしたい。第一、ミャンマーに **16** 機の **JF-17** を提供する契約は、中国一国とミャンマーが締結したものである。生産と後方支援の提供も中国で行う。この方式は、中国とパキスタンが合意した“**JF-17** 共同生産契約”に違反している。

第一、この戦闘機はパキスタンが **50%** 投資する前提で開発し完成させた機体である。契約によると：対外輸出の利潤は **50%** ずつ分け合う規定になっている。また契約では：輸出型の **JF-17** は **58%** の部品生産をパキスタンで行うようになっている。

ミャンマーに **16** 機の **JF-17** を輸出した事業は、最も意味ありげな事業であり、国際航空界において新たなジャンルを生み出したのか。契約金額は、**5.6** 億ドルで、中パの契約規定によると、いずれの国が対外輸出協定に署名しようと、パキスタンは半分の利潤を受け取ることになっている。しかし今回の武器輸出では、利益配当に問題がでた。一部の金額は、中国からミャンマーに借款方式で供与されている。

**2016** 年以降、パキスタンは、**JF-17** の対ミャンマー輸出に関し、公の場では、相当消極的な態度を採っており、姿勢を明確にしていない。

なぜならミャンマー政府がムスリムのロヒンギヤの人々を迫害している事件が、ムスリム国家全体の公憤を激発しているからである。パキスタンでは全国各地で大規模なデモが起きている。いわば、パキスタンの武器輸出政策と **JF-17** の対ミャンマー輸出が矛盾しているのである。この時期は、すべてのムスリム国家が、ミャンマーに対して武器輸出を継続することは極めて困難である。

次に、中国製武器のパキスタンにおけるここ数年の運用状況を見る。イスタンブールの消息筋は **KDR** に次のように述べた：中国の製品は、トルコ、或いは西側の一部の製品に比べ、価格が高すぎる。したがってパキスタンは、逐次中国以外から武器を購入する政策に変更する。例えば、**Z-10** 型武装ヘリの価格である。トルコの **T-129** 比べて価格が高い。しかも品質はトルコ製が優っている。そして性能諸元もトルコ製が上だ。

また中国製の武器装備の改良に関し、中国以外の国家と協力を開始した。例えば中国製の **MBT-2000** 戦車の改良である。現在計画中の案は、ドイツ製の **MTU** ディーゼルエンジンへの換装である。

中国製 **YL-1** 型無人機のテスト結果は、パキスタン空軍の要求を満足させること

はできなかった。パキスタンは中国に投資し、CH-3/3A シリーズ無人機を共同開発した。現在パキスタンは自ら輸出を始めた。火力の強さでは、後者はYL-1に負けない。

中国製武器が高価であるのに、品質は米国、トルコに比べると高くない。JF-17は、現在2機失った。2011年11月14日、2016年9月27日に墜落した。2012年には1年間で14機の戦闘機を失った。多くはF-7、F-7PGである。ある時期には、1ヶ月間で少なくとも3機の中国製戦闘機、無人機が同時に墜落した(2016年9月)。消息筋によると：中国製JF-17の部品の中に構造強度に問題があり、パキスタンは自ら改造を行ったという。

以上